

# 平成29年度 病害虫発生予察情報

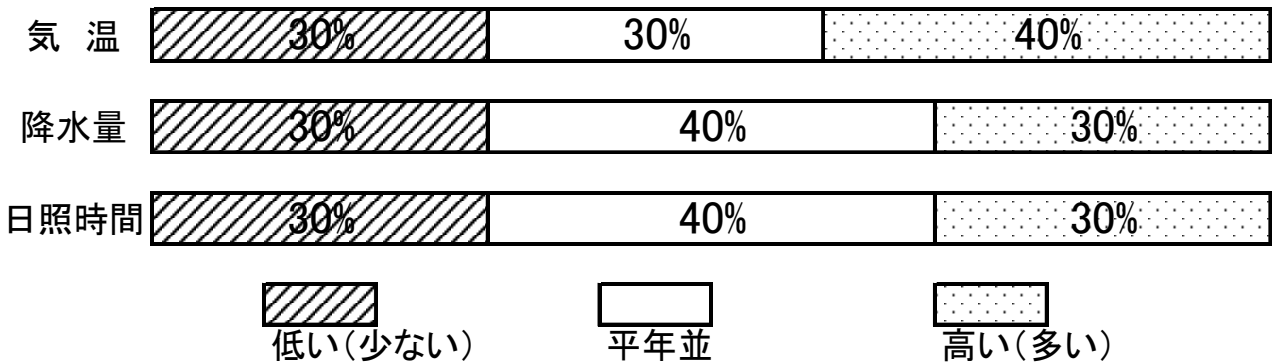
## 発生予報第3号（6月）

平成29年6月5日  
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	ヒメトビウンカ	多い
		ニカメイチュウ	平年並～やや多い
		イネミズゾウムシ	平年並
果樹	ナシ	セジロウンカ	平年並～やや多い
		黒斑病	やや少ない
		黒星病	平年並
		シンクイムシ類	平年並～やや多い
		ハマキムシ類	平年並～やや多い
野菜	カキ	ハダニ類	平年並～やや多い
	タマネギ	カキクダアザミウマ	平年並
		ポトリフス属菌による葉枯れ	平年並
		べと病 腐敗病・軟腐病	やや多い 平年並

中国地方1か月予報(6月3日～7月2日・広島地方気象台6月1日発表)  
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方	県内全域
発生時期	平年並
発生量	多い

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第5半旬まで認められない。
- ② 5月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.58頭/50株当り（平年0.02頭）、発生ほ場率は20%（平年1.9%）で発生量は平年と比べ多い。
- ③ 4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%と低い。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(2) ニカメイチュウ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 やや早い  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は出雲市では4月第5半旬と平年と比べてやや早い。5月第5半旬までの誘殺数は4頭と平年並みである。
- ② フェロモントラップへの5月第6半旬までの誘殺数は89頭(平年76.4頭)と平年並みである。
- ③ 前年の第2世代成虫発生量は、予察灯への飛来は37頭(平年9.5頭)、フェロモントラップへの飛来は139頭(平年52.2頭)で平年と比べやや多く、越冬量はやや多いと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は5月第2半旬と平年並み、第5半旬までの誘殺数は15頭(平年27.7頭)であり平年並みである。
- ② 5月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.20頭/50株当り(平年0.89頭)、発生ほ場率は20.0%(平年24.4%)で発生量は平年並みである。
- ③ 前年の6月後半から9月にかけて予察灯に誘殺された新成虫の累積数はやや少なく(平年比48.6%)、本年の越冬量はやや少ないと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(4) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
飛来時期 早い  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 初飛来は5月23日に益田市の予察灯で雄成虫1頭が確認され平年と比べて早い、その後24日にも益田市の予察灯で雄成虫1頭の飛来が確認された。
- ② 5月下旬の巡回調査では、県東部西部ともに確認されなかった
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率0.9%(平年1.8%)であり、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月11日で平年並みである。
- ②フェロモントラップでのナシヒメシンクイの誘殺数は平年並みである
- ③前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並みで越冬量は平年並みと考えられる。
- ④向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(4) ハマキムシ類

予報内容

- 発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月16日で平年並みである。
- ②フェロモントラップ（出雲市）でのハマキムシ類の誘殺数は平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

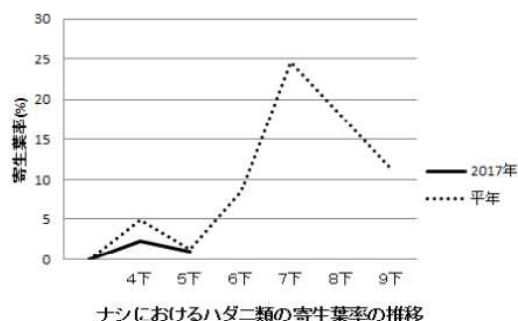
(5) ハダニ類

予報内容

- 発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
- ②5月下旬の巡回調査（安来市）では主要種はクワオオハダニで寄生葉率は1.0%（平年1.3%）と平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。



2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

- 発生地方 県内カキ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①5月上旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
- ②5月15日の巡回調査では本種による巻葉被害が認められた。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

- 発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生ほ場率12.0%（平年19.6%）、発病株率0.2%（平年0.5%）と平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

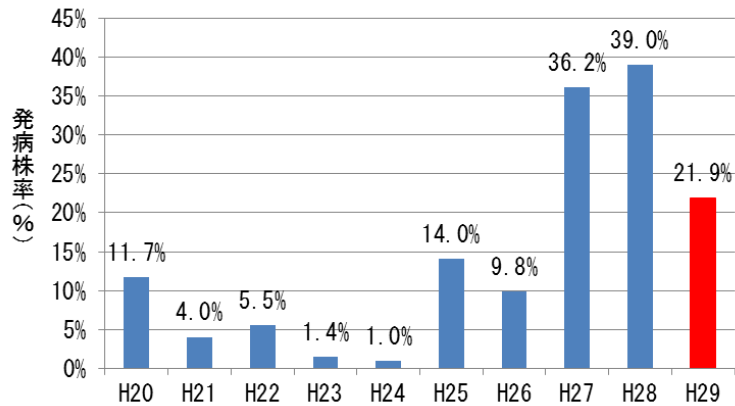
(2) ペト病

予報内容

- 発生地方 県内全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生ほ場率68.0%（平年47.3%）、発病株率21.9%（平年11.3%）と平年に比べてやや多い。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。



タマネギベと病の発病株率の推移(5月末調査)

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ①巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生ほ場率28.0%（平年40.1%）、発病株率1.7%（平年2.3%）と平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農薬検査所ホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農薬検査所のアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

**農薬の安全使用の徹底を！**

- ・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

**島根県病害虫防除所**

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

[島根県病害虫防除所ホームページ](http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/) : [http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo\\_tech/byougaityuu/](http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/)

e-mail [boujyo@pref.shimane.lg.jp](mailto:boujyo@pref.shimane.lg.jp)